令和３年度　地域ケア推進会議のまとめ

１　助言いただいた柏市の課題

ひとり暮らしの認知症高齢者をはじめとして，見守りが必要なかたの増加が見込まれるも，地域における見守り体制が不十分

２　助言内容

カテゴリ	把握している地域の実情や課題	提案
見守り対象者の把握	・配偶者の施設への入所や死亡により，ひとり暮らしとなるかたの増加 ・見守り対象者の把握の着目点として，服装や保清の状況，薬の紛失，夫婦世帯だが妻しか来ない等がある。 ・８０５０問題，特に息子と両親という構成の場合，地域から孤立する印象。高齢者ひとり暮らし世帯ではないため抽出が困難 ・日常生活の中では，認知症かどうかの判別は困難	・情報については重複してもよく，支援者が確認し合い，漏れを少なくしていく取組みが重要 ・コンビニエンスストアや商店からの見守り対象者の把握とセンターとの連携による早期発見
センター等との連携	・医療的な介入を必要としているかたについて医療機関とセンターの連携ができている。 ・近隣住民が認知機能や身体機能の低下により日常生活に困っているかたを把握した際，民生委員がセンターへつないでいる。	
地域との関わり	・見守りが必要なかたは，ひとり暮らしや地域との関わりが薄いかた。本人も近隣住民も関わり方が分からないのでは。 ・対象者と近隣住民との関係性が良好な場合は，介護サービス事業者と近隣住民がつながり，見守り支援をしているケースもある。 ・サロン休止中に利用者の認知機能低下の進行がみられるも，民生委員やセンターが状況を把握しつつ，近所のかたが見守り良い支援ができていた。	・住民と介護サービス事業者のセンターの橋渡しによる支援の輪の拡大 ・見守り体制が不十分であることの原因の追究
既存サービスの活用	・市のごみ出し困難者支援収集制度では，ごみが指定の場所に出されていない場合の電話連絡が見守りになる。 ・移動スーパーでは，高齢者自身が見て買い物ができることが嬉しいと言っていた。また，移動スーパーの地点が安否確認の場となる。 ・介護保険では支援できない部分（ごみ出しや買物支援等）への既存サービス利用は有用	・既存制度活用の確認も重要 ・オレンジフレンズの活動の推進 ・移動スーパーの北部地域以外への拡大 ・日々の医療や介護といったサービスの質の向上への取組み

３　今後について

〇多様なニーズに応じた通いの場づくり，居場所づくりや地域での関係構築
〇オレンジフレンズの活動の推進
〇地域の特徴に合った形での見守り策の検討及び既存制度の把握と整理
〇移動スーパーの展開に向けた関係課等との連携